資料　7

走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会における

意見等の概要（第１回～第６回）

目　次

走水・馬堀地域における教育環境整備の方策案について ・・・・・・・・・・・・・・1

方策案１　走水小学校区を馬堀小学校区に編入する。

1　方策の検討について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2　通学や通学路について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
3　学校規模について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
4　跡地利用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
5　地域や環境について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

方策案２　走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じる。

1　方策の検討について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
2　地域や環境について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
3　学校規模について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

方策案３　小規模特別認定校として走水小学校を存続する。 ・・・・・・・・・・14

走水・馬堀地域における教育環境整備の方策案について

方策案１	走水小学校区を馬堀小学校区に編入する。
趣　旨	走水小学校と馬堀小学校の小規模化が進んでおり、特に走水小学校は全校児童数が 32 人と市内で最も規模が小さい小学校となっています。今後も本市において人口減少・少子化が見込まれる中で、隣接する地域の小学校においても小規模化が進んでいることから、通学区域の変更や小規模校同士の統廃合のみでは、将来にわたって本質的な教育環境の改善が難しい状況となっています。 本案は、通学距離や中学校区との関係を考慮し、走水小学校を馬堀小学校へ編入するというものです。
懸　案	編入後の通学については、距離だけではなく、人通りや防犯、越波、内水氾濫などの課題があるため、児童が安心安全に通学でき、帰宅困難にならないように入念に対応策を講じる必要があります。走水小学校の学区では、今後、若い子育て世帯の入居が見込まれる集合住宅が馬堀小学校から最も遠い位置に存在するため、将来的に多くの若年層に経済的負担を強いる学区の設定になります。

方策案２	走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じる。
趣　旨	走水地域は、自然、歴史、文化など子どもを育てるには良い環境であり、走水小学校は、それらを基盤にした魅力的な教材が身近なところに揃っている全国的にも他に類を見ない貴重な教育施設の一つといえます。走水小学校は、このような地域教材を十二分に活用した教育を工夫しながら数多く導入実践しており、横須賀市の特色ある小学校教育の拠点として極めて重要です。委員からは、走水小学校は、横須賀市内の教育施設として存続すべき宝であるとの意見も出されております。走水小学校は、地域住民との関わり、つながりが歴史的にも深く、スポーツや地域活動、避難所など地域の拠点となっていることから、教育の面だけではなく地域の面からも考える必要があります。方策案２は、この観点から走水小学校をこのまま存続し、若年層世代の移住と定住の促進策を講じるというものです。
懸　案	本案では、事務局から示された「教育環境整備計画においては、小中学校の適正規模を 12～24 学級としており、小規模化の課題への対応策が必要です。」に対応できないといえます。

方策案３	小規模特別認定校として走水小学校を存続する。
趣　旨	走水地域は、自然、歴史、文化など子どもを育てるには良い環境であり、走水小学校は、それらを基盤にした魅力的な教材が身近なところに揃っている全国的にも他に類を見ない貴重な教育施設の一つといえます。走水小学校は、このような地域教材を十二分に活用した教育を工夫しながら数多く導入実践しており、横須賀市の特色ある小学校教育の拠点として極めて重要です。委員からは、走水小学校は、横須賀市内の教育施設として存続すべき宝であるとの意見も出されております。走水小学校は、地域住民との関わり、つながりが歴史的にも深く、スポーツや地域活動、避難所など地域の拠点となっていることから、教育の面だけではなく地域の面からも考える必要があります。 方策案３は、方策案２を講じるとともに、小規模特別認定校制度を活用するというものです。不登校の子どもや小規模を希望する子どももいることから、小規模特別認定校制度を利用し、走水小学校の教育環境等を有効に活用しながら本小学校区を存続します。この案は、教育環境整備として他都市でもいくつか実績のある有効な方策の一つです。
懸　案	本案では、事務局から示された「教育環境整備計画においては、小中学校の適正規模を 12～24 学級としており、小規模化の課題への対応策が必要です。」に対応できないといえます。

【方策案１　走水小学校区を馬堀小学校区に編入する。】

１　方策の検討について

No.	内　容
1	走水小学校の統合により、走水地域の衰退につながると思います。
2	走水小学校の長い歴史を踏まえると、他の小学校との統合は受け入れがたいです。
3	走水地域は小学校と地域が一体となって支えられているので、検討に当たっては、教育の面だけではなく地域の面からも考えていただきたいです。
4	馬堀小学校も小規模化が進んでいるので、仮に走水小学校と統合したとしても、学校の規模はそれほど大きくならないと思います。
5	教育環境整備に関する検討協議会では、現在のように小学校統廃合の是非を中心に議論するのではなく、各地域の小規模校が有する教育資源、教育環境をお互いに共有しながら利活用するような方策を検討すべきです。例えば、スポーツや合唱、意見交換など、大人数でのグループ活動が適している教育、少人数で実施した方がよい教育、多くの児童に経験させるべき体験型教育など、適材適所で柔軟に対応できるような教育の仕組み、システムを開発すべきです。本地域は、市内小学校間の連携教育に関する試みを行いやすく、魅力的な教材が数多く揃っているので、そのモデルケースとしての教育環境の整備を検討してはいかがでしょうか。
6	審議会は学校の適正配置を検討する場であって、地域の発展と過疎化問題について議論する場ではないことは分かっていますが、ただ児童数が少なくなったから統合するということを延々と続けるということではなく、今まで築いてきた地域のアイデンティティと伝統等をどのように守るかという点で、何か答えを出してもらえないかと感じています。
7	走水の環境で学校に通ってほしいという気持ちがある一方で、今のように少ない人数で良いとは全く思っていませんし、クラス替えができる規模まではいかなくても、できるだけ多くの友達と過ごす学校生活を過ごしてほしいというのは、皆も同じ気持ちだと思います。
8	教育に適した児童数は、学級の担任教師が全員の心情、人間関係までを含めて目が行き届くぐらいが適当といえます。
9	今後の小学校施設の活用を考えたときに、走水地域に住む、あるいは今後住みたいという方には、当然共稼ぎの世帯が多いと思いますので、小学校で放課後も預かっていただければ、生活プランを立てやすいと思います。
10	過去の話ですのでどうしようもないことですが、もし、５年前からこうした放課後児童クラブのようなものがあれば、走水小学校の児童数は今よりももう少し多かったのではないかと思っています。

No.	内　容
11	教育環境の整備には多大な費用がかかると思いますし、やはりお金が一番なのかと思いました。同時に、市の財政も厳しい状況であるとも感じました。今後も少子化が進んでいくという認識だと思いますが、そうであれば、今後、小規模校でなければできない地域が出てくる可能性もありますので、それを前提とした制度に方針転換することがあっても良いと思います。当然、学校生活でのさまざまなふれあいもあると思いますが、これからの時代に、例えばオンラインを活用したり、近隣の学校との交流の時間を設けたりすることで、学校の教育を少しずつ変えられればいいと思いました。
12	走水・馬堀地域以外でもこうした話し合いを進めていると思いますが、何年か経てばまた別の地域で統合に関する話が出る可能性もあります。こうしたことを考えたときに、現在は支援策を行っていないからということではなく、全市的な視点でどのような対応が必要かを考えれば、特定の方たちだけに利益あるいは不利益を被るといった事態の解消につながると思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。
13	走水の県営団地の建て直しもありますし、今すぐにできるものではないとしても、若い世代に来てもらうなど他にも考えることはあるのではないかと思います。
14	現在の走水小学校が馬堀小学校に統廃合された場合、走水小学校の学区の最も遠い位置にある県営団地や防衛大学校官舎の児童とその家族に対して大きな経済的負担や労力を強いることになります。本案は、国策として示されている少子高齢化対策にも反する可能性があるといえます。
15	子どもをどのように教育し、育っていくかが優先されるべきだと思います。もちろん地域のことも大切なのは十分承知していますし、その上で、小学校６年間で子どもたちがどのような思いをし、学習をしていくかなどを見据えた上で中学・高校へとつなげていくかを重視していく必要があると思います。少人数では活躍の場が得られる児童も、大人数の中では存在感が無くなり埋もれてしまうこともあります。クラスの入れ替わりが頻繁に行われることで、新しい交流や苦手な相手から距離を置く機会が増えるというメリットもありますが、希薄な人間関係しか形成できない、という見方もあります。少人数で長い時間を共に過ごしながら、お互いの良い点と悪い点を知り、理解し合いながら付き合っていくことも、社会に出るまでに学ぶべき大切なことです。
16	仮に学校を統合する場合でも、いきなり統合と決めるのではなく、小規模特認校制度などをいろいろ試行した上で、最終的に住民が納得するような形で行った方が受け入れやすいと思います。
17	本検討で統廃合に伴う通学距離の延長を許容するならば、馬堀小学校の学区から特色のある魅力的な環境教材が整った走水小学校に通学していただくというプラン（選択肢）もあり得るのではないかと思います。
18	12から24学級を適正規模とすることは腑に落ちません。
19	地域に存在する学校を統廃合するという方策のみではなく、走水小学校、馬堀小学校、望洋小学校の近隣三校を姉妹校として連携させて、それぞれの特長を活かしてより魅力的な教育を展開していく共存共栄の道を議論するべきだと思います。
20	走水に来てまだ日が経っていませんが、小さくて良い学校で、子どもが卒業した学校は残してほしい気持ちですが、現状を鑑みると個人的な願望では難しいと思います。少子化は全国的な問題であると思います。先行して合併している小中学校で、起きている問題や成功事例のデータを集めて、このような場で生かせていけたら良いと思います。

No.	内　容
21	先日、走水小学校で教育環境整備計画に関するアンケートを取りました。無記名方式で、教育環境整備計画を知っているかどうか、本計画を読んだかどうか、そして統廃合についての意見の３点について質問しました。まず、37世帯のうち31世帯から回答を頂きました。その中、28世帯が本計画を「知っている」と回答があり、さらに「読んだ」と回答したのが24世帯で、「読んでいない」と回答したのが７世帯でした。次に統廃合については、肯定的な意見が７世帯、否定的な意見が13世帯であり、残りの11世帯は分からないという回答でした。回答内容については、少子化で仕方がないとする意見、統合により友達が増えることを歓迎する意見、そして、財政負担を理由に統合はやむを得ないとする意見がありました。一方で、走水小学校は少人数で一人一人に目が行き届いており、学年を超えて子どもたちの仲が良い点が特徴です。また、走水地域を生かした行事教育が行われており、小学校を統合した場合は、走水地域の衰退につながるという意見がありました。小学校が地域と一体となって地域を支えている実態があるので、教育の面だけでなく地域の面からももう少し考えていただきたいと思います。
22	すでに統合した学校でのアンケート調査結果によると、賑やかで楽しい雰囲気になったという児童達からの回答とは裏腹に、特に教職員から教育環境が悪化し、負担が増大したとの回答が多く出されていることが委員から指摘されました。小規模学級での教育効果は、学術的な研究成果や調査結果が国内外で数多く報告されていることが委員から示されており、文部科学省でも「少人数教育の実現」について検討が進められていることは周知されているとおりです。各調査報告書には、横須賀市内小学校の統合後のアンケート調査結果（教職員の回答）を裏付ける結果も存在します。少人数教育への取り組みについて、本市は、他の先駆的な自治体に比べて検討が進んでいないことから、小規模化の課題への対応策そのものについて再検討を要する時期にあるのではないかと考えられます。すなわち、教育環境整備として、現在、市が推し進めようとしている小規模校の整理統合を中心とした対策が有効かどうかを慎重かつ柔軟な姿勢で見極める必要があります。

2　通学や通学路について

No.	内　容
1	保護者は、統合後、低学年が通学できるか、スクールバスなのか、路線バスなのか、通学補助は出るのかなどを心配しています。
2	通学区域が変わることで、通学距離が遠くなることが心配です。
3	走水地域から馬堀小学校まで実際に歩いてみると、途中で坂があったり、雨や強風など天候に左右されたりすれば、時間は更にかかるので、通学距離だけでは分からない部分もあると感じました。
4	走水小学校の通学路の一部が海に面しているため、風が強いときなど、長時間にわたって子どもを歩いて通わせることに不安を感じます。
5	走水地域の保護者のアンケートの中で、賛成か反対かを問わず、通学距離及び通学の安全面を心配する意見が多かったです。
6	走水地域における通学距離の３kmは、通常の３kmとは事情が異なります。
7	走水地域には信号のない横断歩道がありますので、安全対策の検討が必要だと思います。
8	バス代を出して遠方の学校（私立小学校、学童保育施設を有する学校等）へ通わせている家庭は、それを分かった上で住んでいると思います。子どもの教育を考える際、本統廃合によって新たに生じる交通費程度は、自己負担するように言われてしまうと何とも言えません。
9	今の環境を変えるように言われて、交通費は自己負担ですと言われるのは違うのではないかと思います。
10	走水地域の実情において通学面で難しさがあるのは十分理解していますので、その点は市で考慮していただき、子どもたちが安全に通える形にしていただきたいと思います。
11	通学で家と学校を行き来する時間は、子どもたちがお互いにコミュニケーションをとれる点でとても大事な時間だと思いますし、これがバス通学になることで、バスの中で静かにしなければならなくなると思いますし、結果として子どもたちのコミュニケーションが奪われてしまうとかわいそうだと思います。
12	放課後に馬堀地域の友達と遊ぼうとしても、低学年の子どもにとっては通学距離の面で厳しいと思いますし、自分も仕事をしているので子どもの送迎もできないため、結果として我慢させることになるのはどうかと思います。また、習い事をしているところでは、学校が終わった後にかなり急いで準備して行く形になるので、宿題をする時間がなくなる状況にならないか不安に思います。
13	走水から馬堀にかけての国道が海から近く、トンネルも非常に狭いという現状がありますし、加えて、地元住民、観光客のどちらなのか分かりませんが、ゴミもかなり捨てられており、歩いていて気持ちの良いものではありません。そうした部分でさまざまな問題があると思います。
14	バスが減便となったことで、バスに乗り遅れたことで遅刻となるのが心配ですし、そうなった場合の対応として徒歩という手段はまず無理だと思います。
15	仮にスクールバスを出す場合でも、車内に子どもが残っていないかどうかも含めて学校側でしっかり把握してくれるのかという心配もあります。

No.	内　容
16	走水小学校まで歩いて通えていたところ、仮に統合によって走水小学校がなくなった場合、その通学費用が自己負担となってしまうと、その住民の方にとっては負担になります。現状、通学費の補助や無料化はありませんが、その点については考えていただきたいと思います。
17	バスについては、市として京浜急行に交渉し、バスの増便をお願いしてもらえたらと個人的に思っていたところです。
18	学年によって下校時間が異なるところがあるので、それも踏まえて全てスクールバスで対応するのか、それが難しい場合は路線バスの方が使い勝手が良いという話になると思います。
19	路線バスによる下校で懸念される点は、信号付き横断歩道と歩道橋が少ない点だと思いますし、下りのバス停から家に帰るのに道路を渡らないといけないのがやはり心配です。
20	市内全体の最長通学距離が４kmということで、例えば、学校の統廃合ないし別の問題によって通学距離が3.5～４kmを超える場合、費用はかかりますが、スクールバスないし通学に対し一定の補助をするという基準を全市的に適用する方法も考えられると思います。
21	通学の安全も配慮が必要ですが、やはり通学距離の点で不公平感が出ないようにするのであれば、通学距離が３kmの場合、こうした通学支援を申請すれば可能であるとか、あるいは基準の距離を超えた人数が何人であればスクールバスの運用もあり得るといった基準を設定してもらうのも良いと思います。
22	走水地域での人数規模を考えたときに、幼稚園バスよりもワンボックスカーのようなもので良いと思います。また、路線バスとスクールバスの併用も考えられると思います。
23	小学校低学年の児童に幼稚園バスに一緒に乗ってもらうことも考えられるのではないかと思いました。
24	仮にスクールバスを出す計画が実現した場合、走水地域における乗車場所については、中通りの神社の下辺り、観音崎ホテル側の中通りの入口辺り、そして走水上町で言えば、中通りが切れて国道16号へ曲がる辺りの３か所が有力候補だと思います。
25	バス代を徴収するのかどうかにもよりますが、仮に徴収する場合、馬堀小学校と馬堀中学校までは行く方向が一緒ですので、バスを出す際に中学生も乗せることができれば、コスト面でも安く済ませられるのではないかと思いますし、ぜひご検討いただければと思います。
26	国有地を売却し集合住宅が建つ場合において、地域に小学校がない場合は物件が売れなくなり、地域住民を増やす機会が失われますし、市や地域に入ってくるはずだった利益が損なわれてしまうことがあり得ます。国有地の跡利用の状況を見てから小学校の統廃合について整理する形の方が良いと個人的には思います。
27	馬堀小学校周辺の海岸側一体は、洪水（小規模な内水氾濫※横須賀市ハザードマップあり）が数年に一度発生しているため、児童が帰宅困難になり、保護者による引き取りもできなくなる可能性があります。実際に、防衛大学校から馬堀海岸経由で帰宅できなくなったことが何度もあります。

3　学校規模について

No.	内　容
1	馬堀小学校も児童数が減少しており、これまでの活動ができるか心配です。教職員の努力や工夫だけでは難しいこともあると感じており、児童の学習面、集団活動等において活性化した授業を行うには、ある程度の人数が必要であると思います。生活面においても価値観や人間関係が固定化してしまうことが心配です。
2	人数の多い小学校に通うのを辛く感じ、小規模校のような環境を必要としている子どももいることを認識してほしいです。
3	走水小学校に通う子どもたちは、小規模校ならではのデメリットを感じているとは限らないと思います。
4	世界保健機関（WHO）が、小学校は100人以下が望ましいとする記事があったり、学校や学級が小規模であれば、教育効果が高まることを実証した報告もあったりするようですので、学校にはある程度の規模が必要だとする市の考えと食い違っているように思います。
5	文部科学省をはじめとする国内外の機関などでも少人数教育の有効性が研究論文や調査報告書の形で数多く示されています。
6	一定程度の児童数がいれば、児童同士でさまざまな考え方に触れることで、コミュニケーション能力の向上が期待できると思います。
7	児童数が増えると、個々の心情や考えに対して、周りの者や教師が丁寧に対応できなくなることもあります。大人数で力を発揮する子と、そうでない子がいることを考慮する必要があります。

4　跡地利用について

No.	内　容
1	仮に統合によって走水小学校を使用しなくなった場合、廃校舎をリニューアルして宿泊施設にする取り組みができないか。現在、走水小学校ではワカメの種付けとホタルの里など特徴のある活動をたくさん行っていますので、市だけでなく全国から臨海学校のような形で宿泊者を受け入れることで、自然体験プログラムなどを実施できればとても良いのではないかというご意見がありました。
2	最新版のハザードマップでは、走水小学校が震災時の避難所として指定されています。跡利用ということではありませんが、現時点でそのような運用になっていますので、震災時の資材の倉庫や乾パンなどを残していただきたいと思います。
3	学校施設としての建物については、震災時の地域の避難所としてそのまま残していただきたいと思います。
4	施設が残されたとしても、それを管理して活用していくことは難しく、小学校跡地が有効に活用された事例は多くないといえます。
5	避難所で実際に人が泊まる機会はありますので、その場合、もちろん体育館がいつまで使えるかというところもありますが、簡易ベッド等の物品が使える点検や施設装備の点検などの方法でノウハウを築いていくこともありではないか。
6	統合後に走水小学校を売却した場合の懸念ですが、現在、走水小学校を利用しているスポーツ少年団が複数あると思いますし、私が知る限りでは野球、空手、剣道があると思います。統合によって走水小学校が使えなくなれば他の場所に移るわけですが、さまざまなスポーツ少年団の間での場所取り調整が大変ですし、団体自体の存続にも影響する可能性があります。子どもの人数が少なくなっていく中で、子どもの活動場所としてのスポーツ少年団の存在はとても意義のある団体だと思いますので、こうした観点からも踏まえて検討していただければと思います。
7	もし走水小学校を避難所として残すとして、今後校舎が老朽化したことで取り壊すこととなった場合、走水地域の住民はどこに避難したらよろしいですか。

5　地域や環境について

No.	内　容
1	走水は、子どもを育てるにはよい環境です。走水小学校には、他の小学校にないものがあります。プールが無いために海で泳いだり、海の幸集会やサツマイモを育てて食べたり、ホタルの里の整備や稲作なども行っています。地域との関わりが減ってしまう不安もあります。
2	馬堀小学校は、地域づくり協議会があり、地域の方々が集まり、草刈りや見守りパトロールなどを行っています。馬堀は温かい方が多く、高齢の方も参加しています。
3	馬堀小学校区と走水小学校区に関して言えば、例えば走水海岸でのキャンプであったり、遠足の目的地となっている観音崎公園であったりと、通学区域は異なるものの、走水は身近な地域だと考えています。もし走水小学校と馬堀小学校が統合ということになれば、その学区の中に教育的資産及び地域教材があるという自慢が増えるという点で、本当に嬉しいことだと感じています。
4	２月には学校側で給食の献立を考える自校献立というものがありますが、ここで走水のわかめを使って地産地消することを通じ、学習の一環へと変えていくような学校です。
5	自衛隊官舎や防衛大学校の土地の件については、もっと前から市でも把握していたと思いますが、協議会を始める前にそれが分かった時点で、市の方でどのようにすればその土地を市で購入したり、新しく人を迎えたりすることができるかの話をしてほしかったです。
6	国有地の問題に関しては、２棟の防衛大学校の旧官舎、南谷戸に位置する３棟の自衛隊の官舎、その他１か所の合計３か所について、管轄とされる関東財務局と横須賀事務所に対しての署名活動をやってほしいとの意見が出ました。これらの面積は、狭い地域の中でかなりの割合を占める土地ですので、早めに民間に払い下げるよう市で働きかけることをしてもらい、新しく子育て世代に入っていただければ良いのかなと思います。
7	馬堀小学校が、もし走水小学校を取り込んだとして、そこから５キロ６キロあるようなところにある観音崎一帯の教育環境をうまく活かすことはできません。走水の地域住民と長年にわたって築き上げてきた協力関係や教育環境、施設などを身近なところで、地域の協力を得ながら最大限活かせるのは、現在の走水小学校だけといえます。

【方策案２　走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じる。】

１　方策の検討について

No.	内　容
1	上の子どもと同じ小学校に通わせたいと思っている方が多いです。１クラス10人程度から、中学校では１クラス40人程度となり心配ですが、子どもはすぐに慣れると思います。
2	本協議会の意見が審議会において、反映されるようにお願いします。
3	走水は人を呼び込める環境が整っています。市として、若い世代を増やすなどの対策を行ったほうが良いと思います。
4	３kmの通学距離に、急な坂道があるようなところでは、居住地として走水以外を選ぶケースが増え、走水地域が廃れていくリスクがあります。
5	京急バスに関しては、浦賀から観音崎を経由して走水に抜けるという形での経路をループ状にする改正をお願いできれば、人的な交流の拡大及び観光地としての活性化につながるではないかと思います。
6	走水小学校には海と山といった、教育的に資するものがある中で、それをなくしてしまえば戻ることはありませんし、とてももったいないことだと思います。
7	横須賀市では、今後、どの小学校も小規模化していくことが統計学的にも予想されることから、複数の教育施設を整理統合して学区を広げていくという、風船を破裂するまで膨張させるような方策（現状でも馬堀小学校の学区はかなり広いとの指摘もあり）は、近い将来、地域と連携した教育が立ち行かなくなり、破綻することが予想されます。近隣した小学校間での連携教育を促進させ、各校それぞれの特色特長を活かしつつ、相乗的に教育効果を高めていく、既存の小学校を共存共栄させていくような方策が将来的には有効であり、必要性が高いといえます。そのような前向きな検討を早期に進めることが必要との意見が委員から出されております。世界的には、少人数教育を中心とした学校教育が主流となっており、学力レベルに関しても日本国は遅れをとりつつあります。全国的に小規模化が進んでいる中で、横須賀市でも小規模校ならではの良さを生かした教育の在り方、進め方に関する検討を行っていくことが望ましいといえます。

2　地域や環境について

No.	内　容
1	走水小学校の教育材の豊かさに感動しています。漁業、海の幸、歴史、神話、走水神社、水源地、美術館、観音崎公園、ホタルの里もあります。地域の皆さまと一緒にこの学習材を再発見していくことにワクワクしています。
2	他の地域では、地域住民が中心にホタルの里を作り上げた、という施設もあるようですが、走水地域に関しては、走水小学校があったからホタルの里ができた、という点を強く主張したいと思います。
3	基地政策課によると、来年度の入札リストに防衛大学校の旧官舎と海上自衛隊の官舎部分が入るという情報を得ました。こうした動きがあるところなので、地域としては今後の成り行きを注視したいと考えています。また、このことについて市にもお声がけを行い、今後の経緯について追うようにお願いしています。また、今後それらの土地にどのような建物が建つのか分かりませんが、ぜひ新規入居者、特に子育て世代に入っていただき、小学校の児童数が増加してくれたらという希望を持っています。現在少人数でも将来にわたってそうだとは言い切れないと思います。学童数などを基準に統廃合を検討するのではなく、教育環境施設をどこに設置するのが良いのか、それらをどう活かしていくのかを軸に教育環境整備は議論すべきです。
4	歩いて通える距離に小学校がなくなると、走水に住むのをやめるという家庭も出ると思いますし、実際にこの地域別協議会にて走水小学校の件が話題になっていますので、将来的に走水小学校がなくなるのであれば、今のうちから馬堀小学校に変更するという家庭も３～４世帯はいると思います。

3　学校規模について

No.	内　容
1	少人数での教育もメリットはたくさんあるので、走水小学校を市内全体ないし県外にアピールする場があっても良いと思いました。
2	新しい教育指導要領のもとでは、子どもたちが主体的になって意見を出し合いながら解決していく学び方になっていますので、少人数の学級では、このような学び方が難しくなります。
3	少人数の学校では、児童それぞれが何かしらの役回りを担当し、人前で発言する機会が与えられます。最初は、うまく発言できない生徒も、経験を重ねることで少しずつできるようになります。児童数が多くなると、そのような成長の機会もその分だけ少なくなるため、適切な人数についてはよく検討すべきです。
4	小規模校の出身ですが、大きなハンディキャップは感じませんでした。
5	小規模校出身者の個性や能力に関して、先入観を持って決めつけてしまうような発言、考えについては強く不満を覚えました。
6	少人数であることで一人一人の責任の所在が明確になる面がありますので、少人数だから教育環境が悪いとは言い切れないと思います。

【方策案３　小規模特別認定校として走水小学校を存続する。】

No.	内　容
1	小規模特別認定校制度を導入することで、走水小学校を不登校児童の居場所とすることができればいいと思います。
2	小規模校特認校制度について、海に近いことを活かした活動をしている学校がありますので、実験的ということではありませんが、走水小学校でも取り組んでみても良いと思います。
3	山梨県にて少人数のクラスを増やす取り組みを行っているのを見ました。まず１、２年生で試行し、次に３、４年生でも取り組むというものでしたが、横須賀でもこうした取り組みを行っても良いと思いました。
4	走水小学校が小規模特認校になったとしても、そこまではバスで来なければいけない問題が出ます。確かに走水小学校は自然環境などに恵まれていますが、こうした通学の部分でハードルが高いと思います。
5	走水小学校には学区外から通っているご家庭がいますが、どの家庭も児童を車で送っていただいている現状がありますので、仮に小規模特認校を導入することになった場合、このあたりについても必要になると思います。